

安全教育の進め方解説

OCHIS 第13回両輪会開く

ヘルスケアネットワーク(OCHIS)は7月25日、大阪中之島センターで「安全衛生委員会・安全教育の進め方」をテーマに第13回「安全と健康を推進する協議会(両輪会)」を開催。副理事長の作本貞子氏はあいさつで、「ここ2、3年、乗務員の健康起因事故が非常にクローズアップされてきている。国交省や全ト協、日本バス協会でも、どう防止していくかということ動いている」と報告した。

その上で、「安全と健康の施策をどう進めていくか、その第一歩が安全衛生委員会ではないかと考えている。その運営の仕方、運営方針によってPDCAの『DO』の部分で、どうアクションを起こしていくのか。安全衛生委員会の進め方は大変難しいが、お互いの会社の良いところをしっかりと把握し活用していただきたい」と語った。

「安全衛生委員会」の概要を説明。梅田運輸倉庫安全管理部課長の野口善弘氏は「安全衛生委員会の運営方法について」を、合通人事総務部次長の山口龍介氏が「安全に対する意識を向上していくには」をテーマに、それぞれが自社の取り組み事例を踏ま

小グループでディスカッション



え発表した。作本氏は今後の国交省とトラック業界の動きについて、「ドライバーの健康、体調を何とかしなければ事故防止対策の限界があるのではないか。『安全』と『安心』プラス『健康』の取り組みが必要」と説いた。

講演後は、小グループに分かれ安全衛生委員会に関する活用の方や課題、今後の取り組みなどをディスカッションした。両輪会の発起人で、今回のテーマを設定した梅田運輸倉庫常務取締役の岩崎小夜子氏は「他社での取り組みや工夫を持ち帰ればマンネリ化を打破できる。苦しい話や良い話、悪い話のいいとこ取りをできるのが『両輪会』と述べた。会場では、太陽工業のアイドリングストップ時・エコ冷房システム「エアースタイル」などが展示された。(山田克明)